

- 神奈川県の茶は統一ブランド「足柄茶」として広く県民に親しまれ、**荒茶価格も全国有数の高水準**で農家の経営安定に寄与していた。
- コロナ禍によって**荒茶価格が急落**、さらに**肥料価格高騰**が追い打ちを掛け、生産農家は経営的に**非常に厳しい経営状況**となっている。
- 安価な混合堆肥複合肥料や鶏糞堆肥を利用した**低コスト施肥体系を提案し、早急に普及するために活動中**

具体的な成果

1 低コスト施肥体系の導入支援

- 展示ほを設置し、慣行の施肥体系と比較し、**収量・品質に差がないことを実証**
- 活動後、1年3ヶ月時点で**足柄茶出荷農家(294戸)の2割以上に普及の見込み**



写真 展示ほ設置の様子

表 展示ほの生葉調査結果

| | 生葉収量 (kg/5a) | 等級 | 全窒素 (%) | 粗繊維 (%) |
|---------|-----------------|----|------------|------------|
| 低コスト施肥区 | 222 | 6 | 5.4 | 22.4 |
| 慣行施肥区 | 242 | 6 | 5.4 | 22.5 |

*全窒素、粗繊維は荒茶工場の生葉分析計による

普及指導員の活動

<令和4年度>

- 巡回指導や講習会で**低コスト施肥体系を提案し、有利性を周知**した。
- 農家が慣行施肥体系から低コスト施肥体系に移行しやすいように、**肥料予約注文票の見直しを農協と調整**した。
- 慣行施肥体系と差異のないことを実証するため展示ほを設置し、**収量や品質への影響を調査**した。

<令和5年度～>

- 展示ほを設置し、**収量や品質が慣行施肥体系と差異のないことを実証**し、講習会等を通じ結果を報告し、普及の足掛かりを築いた。

普及指導員だからできたこと

・茶栽培のみならず**土壌肥料の専門知識**を有し、他県の技術事例を知る普及指導員だからこそ、**生産者に提案、普及をすることができた。**

・日頃より**農家の経営収支を意識**して活動することにより、危機の度合いを即座に判断し、活動に移すことができた。

神奈川県

低コスト施肥体系の導入支援による茶業経営の安定化

活動期間：令和4年度～（継続中）

1. 取組の背景

神奈川県の茶は、神奈川県農協茶業センターに一元集荷され統一ブランド「足柄茶」として広く県民に親しまれ、荒茶価格も全国有数の高水準で農家の経営安定に寄与している。しかし、コロナ禍によって主要な販路が失われ、令和2年から荒茶価格が急落、さらには肥料価格の高騰が追い打ちを掛け、農家は非常に厳しい経営状況となっている。

そこで、生葉生産費の約7割を占める肥料費を削減するため、より安価な混合堆肥複合肥料や鶏糞堆肥を利用した低コスト施肥体系の早急な普及を図ることが求められている。

2. 活動内容（詳細）

足柄茶出荷登録者（294戸）を対象に、巡回指導や講習会で低コスト施肥体系を提案し、有利性を周知した。肥料価格高騰の折、農家の関心は高いものの、収量や品質への影響を危惧する声もあったため、慣行施肥体系と差異のないことを実証するための展示ほを山北町内に1か所設置し、調査を行っている。また、低コスト施肥体系では施用労力が増える点や散布時の臭いが問題となるため、展示ほ設置農家や農協と作業性検討会を開催し、農家へのヒアリングを実施した。その結果、特に普及の妨げになる課題ではないことを確認した。

表1. 低コスト施肥体系の具体的な提案内容

| 時期 | 春肥 | 芽出し肥 | 夏肥 | 土壤改良+秋肥① | 秋肥② | 計 |
|-----------|-----------------|----------|----------------|---------------|----------|------|
| | 2月下旬 | 4月中旬 | 6月下旬 | 8月下旬 | 9月中旬 | |
| 肥料名 袋数 | IB入り足柄茶配合 5袋 | 硫安 2袋 | エコレット055 4袋 | 粒状発酵鶏糞 10袋 | 尿素 1袋 | |
| 成分量 N | 18.0 | 8.4 | 8.0 | 3.7 | 9.2 | 47.3 |
| (kg) P | 3.0 | | 4.0 | 8.1 | | 15.1 |
| K | 3.0 | | 4.0 | 7.0 | | 14.0 |

※1 肥料費は慣行施肥体系の約7割に設計

※2 鶏糞が pH 矯正と苦土石灰成分の補給に寄与



※1 講習会の会場となっているほ場に設置
※2 茶園団地の入口にあり最も人目につく

写真 展示ほ設置の様子

3. 具体的な成果（詳細）

初年度は、既に肥料が予約注文済みであったことや肥料価格高騰に伴う助成事業もあり、導入に至る農家は対象者数の5%程度にとどまった。しかし、今年度は展示ほにおいて慣行施肥体系と一番茶の品質、収量に差異のないことが実証でき、その結果をもとに普及を推進している。令和5年6月末時点で対象者の2割以上の導入が見込まれている。

表2 展示ほの生葉調査結果

| | 生葉収量 (kg/5a) | 等級 | 全窒素 (%) | 粗繊維 (%) |
|---------|-----------------|----|------------|------------|
| 低コスト施肥区 | 222 | 6 | 5.4 | 22.4 |
| 慣行施肥区 | 242 | 6 | 5.4 | 22.5 |

*全窒素、粗繊維は荒茶工場の生葉分析計による

4. 農家等からの評価・コメント（展示ほ設置農家）

荒茶価格の下落と肥料価格高騰のダブルパンチは経営継続に深刻な打撃だ。そうした中で低コスト施肥体系の提案はありがたい。展示ほの結果は、期待通りで品質も収量もほぼ変わらず安心した。「肥料試験は1年だけの結果ではなんとも言えない」という農家の声もあるが、変わりがないのなら、今の状況を考えれば導入すべきだと思う。

5. 普及指導員のコメント

（農業技術センター足柄地区事務所 副技幹 黒澤晃）

産地の危機に対してタイムリーに普及指導課題を設定し、低コスト施肥体系を検討、提案するとともに、展示ほの設置を迅速に対応ができた。一方で肥料の変更に伴う農協との調整や鶏糞利用への抵抗感などから農家が導入するまでに時間を要しているが、展示ほの結果の積み重ねや丁寧な説明で農家の不安を払拭していきたい。

6. 現状・今後の展開等

肥料の変更に伴う農協の理解も得られ、各地から展示ほを設置してほしいという要望もあり、農家の関心も高まっている。要望に応じ展示ほの設置を拡大するとともに、土壌分析結果による連年施肥の影響なども確認し、低コスト施肥体系の導入を促進する。